

令和4年度 第5回 勝山市立保育園のあり方検討委員会 議事録

- (1) 日 時 : 令和4年11月29日(火) 午後7時～午後8時
(2) 場 所 : 福祉健康センターすこやか 多目的ホール
(3) 参加者 : 委員8名、事務局4名

開 会

開会あいさつ

本日は最終の会議となる。すでに手元に答申(案)が届いているかと思うが、これは事務局が原案を作成し、私が事前に目を通し、ブラッシュアップしたものとなっている。この案をもとに修正や追記の意見をいただき、会議を終了したいと考えている。よろしくお願いしたい。

議 事

- 会長 それでは、審議を進める。
 最初に、答申(案)の内容について、事務局の説明をお願いする。
- 事務局 答申(案)の説明
- 会長 説明に関し、ご意見やご質問はどうか。
- 委員 過去に中部幼稚園において、同様なケースがあったと認識しているが、その時も子ども達のことを考えながらソフトランディングさせたと思う。当時のやり方や反省点はどうだったのか知りたい。
- 事務局 当時は南幼稚園との合併であったため、中部幼稚園の子ども達には南幼稚園を基本として転園をお願いした。南幼稚園に行く子もいれば、私立の認定こども園に行く子もいた。いずれにしても、在園児がいたが、卒園を待たず転園をお願いすることとした。
- 事務局 答申(案)の3ページに園児の推移に関する表を記載しているが、緑色のグラフが中部幼稚園のものである。最終的に8人いた園児が令和元年度に0人となった。
- 委員 8人の年齢構成はどうなっているのか。
- 事務局 即答できない。

- 委員 承知した。
- 委員 中部幼稚園の場合は、そもそも 1 号（3 歳以上）の子しかいない。中部幼稚園だけでなく、南幼稚園も園児数が減少する中で、2 園が合併することにより維持していくことができるという流れだったのではないか。
- 事務局 中部幼稚園の廃園の際の流れについて、平成 29 年 10 月に幼稚園のあり方について委員会が諮問を受け、平成 30 年 1 月に廃園の方向で答申をしている。なお、具体的な記載としては、令和元年度もしくは令和 2 年度までに廃園とされている。実際に統合されたのは、令和元年度である。
- 委員 望みとしては、子ども達のことを第一に考えてほしい。例えば、転園を検討している家庭に市内の私立保育園・認定こども園との交流機会を設けるなど工夫をしてほしい。
- 事務局 もし、廃園となった場合の在園児への対応として、市では、市内の私立保育園や認定こども園に見学に行ったり、ならし・交流保育ができるようなサポート体制を整えたいと考えている。
- 委員 在園児の環境変化に対するサポートの内容が答申内の記載には現れていないと思うが、そのあたりはどうか。
- 事務局 サポート体制はしっかり考えたい。記載についても委員の皆さんが問題なければ、追加することとしたい。
- 委員 異議なし。
- 委員 従来から、市内の私立保育園・認定こども園では交流保育を実施している。年に 2 回程度近隣の園児同士が集って、一緒に遊んだりしている。その中で、子ども達は違う園の子との交流をととても楽しみにしており、喜ぶ声も実際に聞こえてくる。大人が心配するよりも子どもが順応する力は優れているところもある。
- 委員 5～10 年というスパンではなく、もっと早い段階で廃園となった場合に、例えば、野向保育園児が 4 人いた時、親の考えもあり 1 人ずつばらばらに違う園に行くことも想定される。予算面も含め、対応を考えてあげてほしい。
- 事務局 1 点、皆さんに確認事項として、答申の日程が 12 月 2 日に設定されている。スケジュールがタイトで申し訳ないのだが、最終形の確認は会長に一任ということによろしいか。

- 委員 異議なし。
- 事務局 先ほど提案をいただいた内容を答申（案）に追記する箇所として、「まとめ」の1にすることにしてよいか。
- 会長 流れとしてはそれが良いと思うが、委員の皆さんはどうか。
- 委員 それでよい。
- 委員 答申（案）を確認し、気になる点についてだが、1点目として1ページの記載によると、公立保育園の大幅な定員割れが常態化していることが表1から分かるとしているが、そこまでは読み取れない気がする。いかがか。
2点目として、6ページの「5 市における保育の方向性について」のところで、市が今後、実施すべき支援策を列挙しているが、この箇所の議論をした覚えがない。この内容を記載することに異論があるという意味ではないが、記載したいきさつの説明をお願いしたい。
3点目に、規則によると本委員の委嘱期間は市長に提言をするまでとなっている。答申（案）の8ページにある期間は本日（11/29）まででなく、12/2が正しいのではないか。
最後に一つ提案だが、市全体として総合的に検討したとき、廃園という結論はやむを得ないかなと個人的には思っている。ただし、保護者の思いが今後もっとも重要なところになると思う。廃園をやむを得ないと思う方とどうか継続してほしいと思う方がおり、保護者の代表の立場としては両方の意見を尊重してあげたい。
その意味で、「保護者の理解を得る」という記載にまで踏み込んでもらえないか。
- 事務局 1点目について、これまで各資料で説明してきたことを記載をした形だが、答申の内容だけでは分かりにくいことから記載を見直すこととする。
2点目について、市として今後何をしていくのかという点を多少盛り込んだ方がよいかと思い、増田会長に相談させていただいた。その中で、あくまでも具体例として記載させていただいた。
- 会長 補足して説明する。皆さんの集まる場でこの話をしたことは確かになかった。これまで、公立保育園がなくなるということは市にとってどういうことなのかしっかり考えたほうがよいということを市に意見をさせてもらってきた。確かに、全国には公立保育園がない自治体は存在する。一番恐れていることは、市として保育者を採用しないということである。そうした時、国から保育に関し何らかの変更を求められた場合に、私立保育園や・認定こども園とのネットワークがスパッと切れてはいけない。私立に全てお願いするのはよくないので、

その辺りをきちんと記載した方が良いと提案した。

また、現在、公立保育園に勤めている先生方が今後、保育園で働けなくなる。この方たちはこれまでずっと子ども達にふれあい、保育の経験を積んできた。これは市の財産である。そういったものを今後、私立にもしっかり反映してほしいという意味をこめての提案でもある。

事務局 会長がおっしゃったとおり、今後、市として市内の保育をマネジメントすることが不可欠であると考えている。現在、市内の私立保育園・認定こども園による園長会が開催され、市の保育の在り方について検討をいただいているが、市としても皆さんのお知恵を借りながら、共に市の保育について責任を持って考えていきたいと考えている。そういうつもりで記載をさせていただいた。
委員の任期については、修正する。
委員からの文章に係る提案については、そのほかの修正も含め記載の変更を検討する。

委員 「6 まとめ」の文章について、「廃園とすることはやむを得ない考える」となっているが「考えられる」というように客観的な表現がいいのではないか。

事務局 そこも含めて、記載内容を検討する。

委員 最終的な答申は、公表されるのか。扱いについて聞きたい。

会長 市のHP等で公表されるほか、今後、市が方向性を示す基礎の一つとなるものである。今後、事務局が皆さんからいただいた意見を踏まえ、答申案を修正することとなる、なお、本メンバーが集まるのは本日が最後となる。最終確認をしたうえで、答申をさせていただくので、よろしくお願いしたい。

委員 答申の中に園児が少数となることから、廃園はやむを得ないという記載がされているが、保護者からは、例えば大きな保育園に転園し、また小規模の小学校に通うことを危惧しているとよく聞く。
小中学校は学区制であるが、小学校でも今後同様の問題が起きるのだと思う。増田会長に以前、お話しいただいた中に、人数の面から保育において教育が成り立つ環境なのかどうかというものがあったが、小学校においても同様の考えになるのか。

会長 年齢による違いという点を考えたほうが良いと思っている。生まれてからまだ5～6年という子ども達に行う教育というのは、人生の基盤をつくる時間であり、学校教育は学習（机について、知識を吸収する）の色合いが強まるのではないか。まったく同様の土台で考えるのも少し危険かなと考えている。自身は小学校の教員免許を持っているが、小学校と保育園を比べると環境は全然違うな

と感じる。

委員

検討委員会の議論とは異なるが、自身の父親がもし今生きていれば 100 歳近くになっており、戦争に行き帰ってきた頃が 20 歳くらいであった。その後、平成に入りバブルがはじけた頃には 64 歳であった。

何が言いたいかだが、以前の日本は、現在の中国のようにアメリカに次ぐ 国家であり、それを築いてきたのはまさに父親の年代である。敗戦の焼け野原から世界の 2 番手にまで駆け上がった。それに比べて、今の日本は世界から 1 周遅れになっている感がある。

我々が高校の時代にはすでに日本は豊かになっていた。その結果、日本は 世界にどんどん置いていかれている。賃金も 30 年間日本だけが何も変わっていない。

教育について、日本は地理的に独立しており、他国から影響を受けにくく、ぬるま湯に浸かっている感がある。日本人の気質という面もあるが、今回の議論についても、細微に保護者や子ども達に気を遣いながら、議論を積み上げて考えている。一方で、世界はダイレクトに変化し、そのギャップを感じている。

今回の議論だけでなく、様々な会議がこんな状況なのだと思う。これ仕方のないことだと思うが、もう少し大きな視点でスピード感を持って、大切なことにピンポイントで取り組むことも必要だと思っている。

会長

市のあるべき姿にもつながることだと思う。最後に確認だが、12/2 に市長への答申を行うこととなる。

以上で予定した議事については終了となる。ここで、本日の議事進行を終了する。

閉会あいさつ

副会長

本日は、今まででも一番議論が交わされ、むしろ今日で終了することがとても残念なくらいに感じた。また、勉強する機会にもなり、ありがたかった。勝山市の宝である子ども達をこれからどういう風に成長させ、勝山市の未来につなげていったらいいかというところを大きな視点で議論することができた。半年間にわたる議論に感謝する。

閉 会